

Japanese Society for the study of Social Welfare Education
NEWS LETTER NO.51



〒998-8580 山形県酒田市飯森山 3-5-1

東北公益文科大学 小関研究室気付

TEL 0234-41-1288 ☎ : info@jsswe.org <http://jsswe.org/>

2026 年 7 月 31 日発行

入稿間際の7月28日未明、熊本での地震発生ニュースが流れました。

まだ全容が見えず心配が募るばかりですが、皆さまの安全と復興をお祈りしています。

1. 巻頭言	2
生成 AI についてどう教えるか？	
	日本社会福祉教育学会 副会長 阪口 春彦 (龍谷大学)
2. 理事体制の一部変更	3
3. 日本社会福祉教育学会 第 22 回大会	4
4. What is the essence of social work practicum? ～ 3 つの My ルール ～	6
5. ご案内	12
アクティブラーニング・カフェ開催のお知らせ-「学生も教員も楽しめる授業研究へのお誘い」-	
	川廷 宗之(大妻女子大学名誉教授) 久保田 寛(東大阪大学短期大学部)
6. お知らせ	14
7. 編集後記	14

1. 巻頭言



☞ 理事 阪口春彦会員
(龍谷大学)

生成 AI についてどう教えるか？

日本社会福祉教育学会 副会長 阪口 春彦
(龍谷大学)

近年、「生成 AI についてどう教えるか？」という問いは、教育に携わる者にとって大きな関心事となっています。

本学会ではこれまで、2025 年 9 月に開催された第 21 回大会において、川崎医療福祉大学医療データサイエンス学科講師の谷川智宏先生をお招きし、「指導する立場で知っておきたいイマドキ学生の生成 AI の使い方」をテーマとした「開催校企画ランチョンセミナー」を実施しました。2026 年 3 月には、谷川智宏先生を再びお招きし、「生成 AI を“うのみにしない”ための AI リテラシー～専門職教育に欠かせない仕組み理解とリスク認識～」というテーマで第 16 回春季研究集会を開催しました。これらの内容については、2026 年中に J-STAGE で公開予定の『日本社会福祉教育学会誌』第 33 号でご確認いただけるようになると思います。

私は、これらのセミナーや研究集会での学びを踏まえ、最近、生成 AI をテーマとした授業を行いました。長くなりますが、その授業内容をご紹介します（実際に行った授業内容を一部修正しています）。

(1) 生成 AI を使った完全パングラムの詩の作成

課題： 現代で使うひらがな 46 文字の完全パングラムの詩（いろは歌のようなもの）を作ろうとしています。次のとおり途中まで詩を作りました。

部屋の花散り 青く木と竹濡れて 沢照らす 城を背に本読み 眠るかも
(へやのはなちり あおくきとたけぬれて さわてらす しろをせにほんよみ ねむるかも)

まだ使っていない「い」「う」「え」「こ」「そ」「つ」「ひ」「ふ」「ま」「め」「ゆ」の 11 文字すべてを一度ずつ使ってこの後に続く意味の通る文章を生成 AI に作らせて、詩を完成させてください。

濁音・半濁音・小書き文字の使用は不可、上記の文字以外を使うことも不可です。意味の通らない文章など、以上の条件を満たしていない文章を生成 AI が提案してきたら、生成 AI に作成し直させてください。制限時間 10 分。

(2) 生成 AI とのやり取りの内容（生成 AI からの回答など）の発表

(3) 生成 AI を使わず自力での完全パングラムの詩の作成

課題： 生成 AI を使わず、条件を満たした文章を自分で考え、作成した文章をメモしてください。制限時間 10 分。

(4) 自力で作成した完全パングラムの詩の発表

(5) 教員が作成した完全パングラムの詩の披露

教員が作成した完全パングラムの詩： 「～ 不意打つ声 眉ひそめ（ふいうつこえ まゆひそめ）」

(6) 感想（今回の生成 AI とのやり取りをとおして生成 AI に対してどのように感じ、生成 AI に対する印象はどのように変わったか？ 今後、生成 AI をどのように利用すべきだと思ったか？ など）の発表

(7) 生成 AI の活用についての解説

解説の内容：

- ・生成 AI は万能ではなく、人間の方が優れていることもあること
- ・生成 AI は間違っただけを堂々と回答してくるし、指示したことを勝手に無視することもあるので、信用しすぎるのは危険であり生成 AI の回答を検証することが重要であること
- ・生成 AI に頼ってばかりいると自身の考える力などが衰えていってしまうこと
- ・生成 AI の限界や得意なことを理解し、すべてを任せるのではなく、その力をうまく活用すべきこと
- ・生成 AI とのやり取りを繰り返して生成 AI の回答をブラッシュアップしたり、プロンプトを工夫したりすることが重要であること
- ・生成 AI に頼ってばかりではなく自分で考えることも怠らないこと
- ・大学が公表している生成 AI を使う側の心構えを守って生成 AI を活用するべきであること

なお、以上の授業を実施する前にいくつかの生成 AI を使って完全パングラムの詩を完成させることができるか試してみたところ、同じ文字を複数回使っている、あるいは自然な日本語になっていないなど指定された条件が守られていない回答や、「条件を満たして完成させることはできません」との回答が生成 AI から返ってきて、試行した範囲では、いずれの生成 AI も条件を完全に満たす詩を完成させることはできませんでした。授業を実施したところ、受講生も 10 分間で詩を完成させることはできませんでした。しかし、時間をかければ私には詩を完成させることができましたし、おそらく根気よくやれば多くの人にもできると思います。

以上は今年度初めて行った授業実践であり、まだ改善の余地がありますが、上記のように実際に生成 AI を受講生が使う機会を設けて生成 AI の限界を実感させるとともに、人間ならではの強みを具体的に示すことで、生成 AI に対する向き合い方を変容させやすくなると感じました。

上記のセミナーや研究集会に参加し、それを踏まえて授業を実践したことで、生成 AI をはじめとする技術の進歩などに応じて授業を更新していくことの重要性を実感しました。その実現のためには、教員自身が継続的に情報をアップデートしていくことが欠かせません。

本学会が、そのような学びと情報共有の場として、会員の皆様の教育実践を支える存在であり続けられることを願っています。



2. 理事体制の一部変更

2026 年 3 月 31 日に開催された第 5 回理事会にて第 7 期理事体制に一部変更がありました。この場を借りて、会員の皆さまにご報告申し上げます。

本学会副会長であった白川充会員（仙台白百合女子大学）が 2025 年度をもって退会されたことにより、阪口春彦会員（龍谷大学）が副会長に就任し、学会誌編集委員長として工藤英明会員（青森県立保健大学）が就任いたしました。

第 7 期の残余期間につきましても、理事・事務局員とともに職責を果たしてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

第 7 期理事（2026 年度 4 月 1 日～※）

（本学会ホームページより抜粋）

会長	志水 幸（北海道医療大学）
副会長	小山 隆（同志社大学） 阪口 春彦（龍谷大学）

理事	第 1 委員会※1 阪口 春彦	工藤 英明（青森県立保健大学） 阪口 春彦（龍谷大学） 保正 友子（日本福祉大学） 担当事務局員 学会誌：山下 NL：島谷
	第 2 委員会※2 小山 隆	ヴィラーク ヴィクトル（日本社会事業大学） 川島 恵美（関西学院大学） 小関 久恵（東北公益文科大学）※事務局長と兼務 西川 ハンナ（創価大学） 担当事務局員 大会：宮本 研究集会：村山
事務局長		小関 久恵（東北公益文科大学）
監事		川廷 宗之（大妻女子大学名誉教授） 福山 和女（ルーテル学院大学名誉教授）
事務局員		島谷 綾郁（敬心学園 職業教育研究開発センター） 宮本 雅央（北海道医療大学） 村山 くみ（東北福祉大学） 山下 匡将（名古屋学院大学）

役職別五十音順

※1 学会誌・ニュースレター（NL）など学会刊行物担当

※2 大会、研究集会など学会イベント担当

※3 白川会員の退会により、4月1日より理事体制の一部変更あり



3. 日本社会福祉教育学会 第22回大会

第16回春季研究集会（2026年3月29日開催）から早数か月が経ちました。春季研究集会では、生成AIの適切な活用の視点や基礎を学びつつ、ワークショップも行いながら開催されました。ご参加いただいた会員の皆さまからも嬉しいお声をいただきました。改めまして、ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました！

さて、今年の大会は11月14・15日に東北公益文科大学 酒田キャンパス（山形県酒田市）にて開催予定です！皆さま、奮ってご参加ください！

なお、大会参加申し込み方法や交通アクセス等につきましては、本学会ホームページにてご確認ください。（<https://www.jsswe.org/>）

＜参加者の声＞

生成AIについては、これまで具体的な使い方に意識が向かいがちでした。今回の研修に参加して、その背景にあるしくみを理解することの重要性を改めて実感しました。

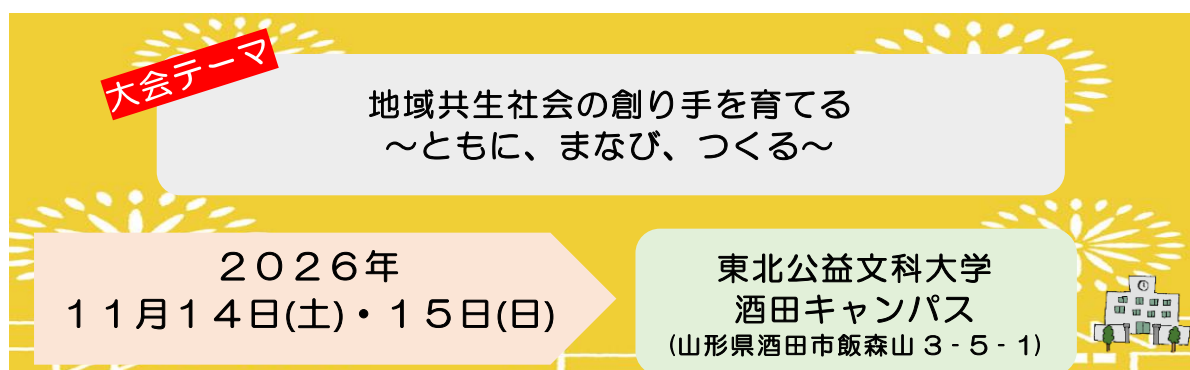
しくみを理解することで、より適切かつ効果的に活用できると感じています。

伊藤優子（龍谷大学）

※酒田市は宿泊施設が比較的少ない地域です。どうぞお早目のご予約をお願いいたします。

※酒田駅前、酒田市役所周辺、山居倉庫周辺の宿泊施設ですと、会場までの移動がスムーズです。





◆開催趣旨

第22回大会は東北の地、山形県酒田市の東北公益文科大学で「地域共生社会の創り手を育てる～ともに、まなび、つくる～」をテーマに開催します。東北公益文科大学は、2001年の開学当初より「公益」をテーマとする教育とともに、大学が地域の一主体となり多様な主体と協働・共創する「大学まちづくり」を進めてきました。

大会1日目には、その一環として取り組んできた「地域共創コーディネーター養成プログラム」の10年を基調講演から学び、シンポジウムでは多様な主体と共創する社会福祉専門職養成のあり方について議論します。

大会2日目には、東北各地で展開されている「福祉を自分ごと」にするユニークな福祉教育プログラムの実践から、専門職を目指す学生の「福祉マインド」醸成への示唆を得るとともに、子どもたち、また市民全体の当事者意識をどのように育てていくか、これからの社会福祉教育のあり方を考える機会とします。

酒田시는日本海、最上川、鳥海山に囲まれた自然豊かな港町です。江戸時代には北前船の寄港地として「西の堺、東の酒田」と謳われるほど商業が繁栄し湊町文化が形成されました。庄内米、地酒、海鮮などのグルメも充実しています。遠方ではありますが、ぜひこの機会に山形県酒田市にお越しください。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

◆プログラム内容

<1日目>

13:10～13:20	開会 ・開催校挨拶 ・学会長挨拶
13:20～14:35	基調講演 「共創する人材をどう育成するか ～『地域共創コーディネーター養成プログラム』の10年から」(仮) 東北公益文科大学名誉教授 伊藤 真知子 氏
14:45～16:55	開催校企画シンポジウム 「地域の多様な主体と共創する社会福祉専門職の養成とその仕組みづくり」(仮) シンポジスト： 西川 ハンナ 氏(創価大学、学会理事) 「地域共創を支える社会福祉専門職とファシリテーション・コーディネーション」(仮) 調整中(地域共創コーディネーター養成プログラム運営委員会委員) 「共創の力を備えた人材を育てる仕組みづくり～地域共創コーディネーター養成プログラム運営委員会の役割から」(仮) 深井 雄樹 氏(酒田市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー、社会福祉士)

	「現場で求められる共創の力とその育成について～卒業生の立場から」(仮) コーディネーター：小関 久恵 氏(東北公益文科大学、学会理事)
17:30～19:00	情報交換会(東北公益文科大学カフェテリア)

<2日目>

9:40～	受付
10:00～12:10	学会企画シンポジウム 「福祉をどう伝え、学びを創るか～福祉を「自分ごと」にするために社会福祉教育にできること～」(仮) シンポジスト： 村岡 夢月 氏(酒田市役所) 「RJ(Restorative Justice；修復的対話)サークル」(子どもの意見表明) (山形県酒田市。酒田市教育委員会×多機能福祉施設こもれび×東北公益文科大学及び大学院スクールソーシャルワーク教育課程×市内小学校) 佐々木 身佳 氏(湯沢市社会福祉協議会) 「孤高の戦士サポーター養成講座」 (秋田県湯沢市 湯沢市社会福祉協議会×市内高校) 野田 大介 氏(特別養護老人ホーム久慈平荘 副施設長) 「福祉発見プロジェクト、ひろの学ほか」 (岩手県洋野町。社会福祉法人みちのく大寿会×市内小中高校) コーディネーター：工藤 英明 氏(青森県立保健大学、学会理事)
12:10～13:20	昼食休憩
12:20～13:00	総会
13:20～13:55	教育実践報告
14:00～15:00	自由研究発表

4. What is the essence of social work practicum?

～ 3つのMy ルール ～



「アボリア連載」の終了(NL50号にて終了予定)に伴い、新企画を始めます！

昨年度(2024年度)、会員の皆さまにご協力いただき「社会福祉教育のどのようなことに興味関心を持っているのか」を把握し、今後の学会運営(大会や研究集会など)と更なる発展に生かすことを目的にアンケート調査を実施させていただきました。(集計結果は、NL45号にて会員の皆さまに共有させていただいております。)集計結果を概観すると、NLに取り上げて欲しい話題として、**ソーシャルワーク実習教育の進め方・ソーシャルワーク演習の進め方・教育評価・学生参加型の授業の作り方**といった項目の回答数が多いことがわかりました。この結果を踏まえ、まずは、ソーシャルワーク実習教育・演習教育に焦点を当て、教員・実践現場の職員・学生から、各々が描いているソーシャルワーク実習(あるいは演習)教育のあるべき姿をご提示していただきたいと思います。

是非、本学会員の皆さまにとって実習(あるいは演習)教育のあり方を今一度考えるきっかけとなりましたら幸いです。

第1弾は「学生」に焦点を当て、お話をおうかがいしました。ご協力いただいたのは、**武蔵野大学4年生の鵜飼穂香さん、笠原優華さん、島田愛美さん**です！

3人の方々にはソーシャルワーク実習を経験した「学生」であるからこそ抱く、実習教育・演習教育のあり方に関する想いを熱く語っていただきました。純粹かつ率直な想いをおうかがいし、勉強になることばかりでした。

鵜飼さん、笠原さん、島田さん、お忙しい中、ありがとうございました！！



左から
鵜飼穂香さん、笠原優華さん、島田愛美さん

あなたが考える「理想のソーシャルワーカー」とは？



鵜飼さん

「ただ寄り添うのではなく、クライアントの今後を見据えながら生活を豊かにできる人」

授業を通じて面接技法などを学ぶ中で寄り添うことが大事なのかなと思っていましたが、実習を通してずっと寄り添っていてもよくないというのを教わりました。クライアントさんに頼まれたことすべてを引き受けていたらその人の為にならないので、自分でできるようになるまでを支援するような感覚が大事であり、ただ寄り添うだけが仕事じゃないというのを実習を通じて学びました。



笠原さん

「観察力がある人」

実習を通じて思ったことなのですが、1回の面談だけではその人については限られた情報しか得られないと思いました。ですので、その方がその日何を着てきたかとか、どういう容姿をしているかといったように言語的なコミュニケーションのやり取りが中心となる面談だけではわからない情報もきちんと自分で取っていかないと、その人の全体像が見えてこないのではないかなと思ったからです。その他、観察力をつけるということは、その人個人だけではなくその周り（環境）に何が足りていないのかということにも目を向け、個人と環境の全体像をきちんと捉えて支援ができるようになりたいからです。



島田さん

「その人の力を引き出せる人」、「安心できる場を作れる人」

私自身がこの人話しやすいなと思う人というのは、頑張って明るくしようとかではなく、自然体でいる方が多いなと思っています。そのため、話しやすい人や相談しやすい人は、自然体でいる人だからこそ話しやすい雰囲気を出していて、その空気感が目の前にいるその人の力を引き出すことができたり、自分の目の前の人に対して安心できる場を作れるのではないかなと思っています。

「理想のソーシャルワーカー」になるために「現在行っている」My ルール
3つを理由や方法も含めて教えてください。



- ①専門職としての技術をしっかり学ぶ
- ②普段の生活の中での物事の客観視
- ③国家試験勉強



鵜飼さん

自分がソーシャルワーカーとして働くというのは決まっているので、勉強の中でも面接技法とか専門職としての技術みたいなのはしっかり学ぶようにしてます。ワーカーとしての技法などは教科書を読んだり、AI を使って理解はできると思うんですけど、事例などを通して、「こういう言い方がこれの技法にあたるんだ！」みたいなのを考えることでより理解をしやすいようにしています。

他には、普段の生活の中で友達などと話をしていて、客観視するようにしています。どうしてこの人は今自分に相談をしてきたのかとか、そういうのを考えて答えを出すようにしています。その他、私自身が目指すソーシャルワーカー像があるので、そのためには国家試験に受からないとダメなので、今は国試勉強必死にやっています（笑）。



- ①何事にも挑戦すること
- ②相手のニーズを見極めるための積極的な声かけ
- ③国家試験勉強

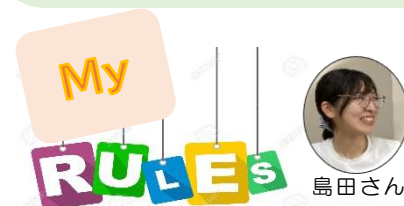


笠原さん

1つ目は、視野を広げることが重要だと思っているので、声をかけられたら、とりあえずやってみる、何事にも挑戦することを徹底しています。

2つ目は、対人援助にもつながると思っているのですが、接客業のアルバイトを通じて、なるべく自分から積極的に声をかけ、その人が今どのような情報やサポートを必要としているのかを見極めるように積極的にコミュニケーションをとることを心がけています。

3つめは、ソーシャルワーカーになるためには国家試験に受からないといけないので、今は国試の勉強をすること…です（笑）！



島田さん

- ①自然体でいること
- ②自分の周りにいる人への敬意と感謝
- ③当たり前を当たり前と思わないこと

ソーシャルワーカーは相談支援なので、話しやすい・相談しやすい人であることは重要だと思っています。私にとって相談しやすい人は、頑張ってるように！とかじゃなくて、自然体でいる方が多いなと思っているので、自然体であることを大切に思うようになりました。

昔、学校に通うのがつらい時期があったのですが、その時に人との繋がりが途絶えた時期がありました。今まで当たり前で友達と遊んでいたこととか、家族とも衝突することが多くなってしまったことがあったので、今まで当たり前だと思っていたことは当たり前じゃないんだなと気づき、だからこそプライベートだけではなくワーカーとして支援する上でも自分の周りにいる人にまず感謝をしながら支援することができる、関わることができるような「当たり前」の環境や時間を大切にしたいなと思っています。

大学で学んだこと（実習(あるいは演習)教育)の中で、 実習中、どのようなことが役に立ちましたか



鵜飼さん

自分にとっては、実習指導の時間の中で学生同士の話し合いがとても良い時間でした！帰校日指導の時にみんなに久しぶりに会えるというのも楽しみだったほか、自分が実習を通じて経験したことを話した時、分野の異なる実習先の学生から、「それってどういうことなの？」とかいろいろな質問をしていただきました。その質問を通じて、「そこはわからないから指導者さんに質問してみます」といった学生相互のやり取りがあった上で実習指導者の方にお話をおうかがいすることが一番の学びになったと思います。

演習については、実習が全て終了した後の「ソーシャルワーク演習Ⅴ」の時に学生がそれぞれ事例を持ち寄って検討することを実習指導クラスとは異なるクラスで行う中で出た質問（制度のことなど）が学びになりました。自分が行った実習先施設やその分野の知識はしっかりと頭に入っている状態かつ実習記録を見返しながら答えるということも大変でしたが、かなり学びになりました。

実は私、実習指導や実習がなかったらおそらくソーシャルワーカーになろうと思っていませんでした。実習指導の授業の雰囲気づくりを先生がしてくださってとてもよい雰囲気の中で「ソーシャルワークとは」について考える時間を実習開始前後で深めることができました。実習中は、指導者さんは毎日とても忙しい中、1対1の振り返りの時間は必ず作ってくれました。そこでは質問もしやすく、質問に対するフィードバックも必ずくださったので深い学びにつながりました。

その他、実習に行くまでは一般企業説明会に行っていました。とりあえず国試は受けるけど一般企業に就職しようかなと考えていました。いざ実習が始まって利用者さんと話をしている実習指導者の方の姿を見て、普通に話をしているだけなのに、振り返りをしていただいたら（クライアントの方との面接場面で）技法を使って、「すご！」と思いました。「普通に（ワーカーとして）かっこいい！」とも思い、「ワーカーにしかできない仕事ってあるんだ！すごいな！」と思いました。実習指導だけではなく実習を通じて、「医療的な支援ではなく、生活支援でも人を助けられるんだ！」と思い、MSWを目指しました。



笠原さん

一番役に立ったなと思うのは、計画書です。計画書は思っていた以上に詳細に書く必要があり、作成するのがとても大変でした。しかし、計画書を書いたことによって、自分が実習中、どういう行動を起こさなきゃいけないのかというのが明確になりました。「これがクリアできたから、じゃあ次はこれをやってみよう！」という指針があったのが、非常にやりやすかったなと思います。

計画書を作る過程で、最初は計画書を作ったことがない私たち学生は何もわからないので、内容も抽象的で何にでも当てはまるような計画を立てる傾向があるなと他の学生を見ていて思いました。しかし、実習計画書を添削して下さる先生が「ここをもうちょっと詳細にこういう風に分解して解像度を高めていったらいいんじゃない？」というようなことを教えてもらって、より計画書が鮮明になったかなって思います。



島田さん

1つが、ソーシャルワークの授業を通じて、自分を客観的にしっかりと見ることができました。以前は自分の考えが偏ってしまい、白黒決めてしまう傾向だったのですが、授業内でそれは認知の歪みということを知りました。本当は物事にはグレーゾーンがあるということに自分自身、気づいて納得しました。悩んでいる時というのは、白黒思考になってしまうので、実習の時も最初の方は考えが偏っていたのですが、「あっ今ちょっと偏り過ぎてる！」と自分で気づいて修正でき、授業で学ぶことができてよかったと思い、実習にも生かせるな！と嬉しくなりました。

2つ目が、ジェノグラムやエコマップ、病気のことを事前に学べたことです。実習中、アセスメントシートや支援計画が出てきたのですが、それを目にした時に、すぐにどのようなことなのか想像して理解できたことやそこから何を読み取る必要があるのか考えが及んだことがとても良かったなと思います。

実習に行く前に「(大学から)こんなことを教えてもらいたかったな」ということがあれば教えてください



鵜飼さん

面接のロールプレイを学生以外でしっかりやったことがありませんでした。やはり学生同士だと、だいたい仲いい子と一緒に授業受けてるんで、仲いい子とロールプレイを行うと笑ってしまい、真剣にはできませんでした。

実習で初めて患者さん役をワーカーさんがやってくれた時、私はワーカー役を行ったのですが、1回目はボロボロでほぼ何もできませんでした。その時に、実習指導者の方が基礎から面接のあり方を教えていただき、2回目はしっかりと行うことができました。他の大学の子と話をした時に、ロールプレイを授業で行っていたという話を聞いて、もう少ししっかりやりたかったなと思いました。



笠原さん

相談援助をリアルに練習する授業があったらいいなと思います。たぶんですが、多くの実習先が実習生に相談援助を任せられないのは、学生は勉強しているから知識はあるけどその場でクライアントと面と向かった時に何を言い出すのかが怖いからなのではないかと思うんです。だから、実習行く前にたくさん相談援助の練習をして、先生達からいろいろアドバイスをいただいた上で実習に行くとまた違うのかなと思いますし、そういう授業を受けてきているということを実習先がわかると「相談援助を少し任せても大丈夫かな」と思ってもらえるのかなと思いました。一応学校では行っているのですが、グループワークで近くの人とやってみましょうという形式だったりするので、実際に先生からの意見をもらうことは難しいですし、知識はたくさん詰め込まれていくから頭ではわかっているのですが、実際、面と向かった時はまた話が違うのではないかと思います。

他に、多くの実習生に当てはまると思うのですが、実習中、何もできない時間（クライアントから面接同席を断られる、元々実習生が入ることのできない面接など）が長い場合もあるのではないかと思います。その時間に机に座って教科書や本をひたすら読むというのは、最初はいろいろ本を読み、いろいろな知識を得られて学びになると思います。ですが、実習に行っている目的の1つは「本を読むため」じゃなくて、「実技を身につけるため」というのがあるはずだと思います。実習生という立場だと自分から「あれやっていますか？これ行っていますか？」と言える場面と言えない場面もたくさんあるのではないかと…。そういう時にどういう風に行動したらよかったのかなというものが、ずっとモヤモヤしたまま実習が終わっちゃうということってたくさんあるのではないかともしました。

「実習」って聞くと常に動いていたり、常に何か自分でアクションを起こしている状態を想像すると思うんです。学生は、何もできない時間があるとは考えてもいないだろうし。なので、その何もできない時間の場面でどういう部分を見といた方がよい、事務所の中のこういうところに焦点を置いて見といた方がいいというような「何もできない時間」の対処法、そこから何を学んだ方がいいのかななどを大学側から教えていただいていたなら、実習生としてモヤモヤとした気持ちと闘わずにいられる学生は多いのかなというのは思いました。

大学1年生から長い間、実習について考え、2年生になったら演習がある中で長い時間かけて「実習はこういうものだ！」みたいな自分の理想像は皆あると思うし、その中で「何もできない時間」という感覚や考えは学生にはまったくないと思います。だから、実習に行ったら「あれしよう！これしよう！」と思い描いていたことが「何もできない時間」が長いとそれが全て無くなってしまう感覚になると思います。



島田さん

同じ実習先の種別同士の勉強会のようなものがあったら、良かったかも知れないと思います。私が所属していた実習クラスは、私の実習先種別の人は私ともう一人しかいなかったもので、その子と話していたのですが、関連する制度や法律含め、こういうことを事前に学んでおいた方がいいよというゼミ形式的な勉強会があったらよいなと振り返ると思います。

その他は、相談しやすい場があるとよいなと思いました。場所にもよりますが、実習指導者の方もお忙しいので毎日話せる感じではなく、もう少し気にかけてもらえたり、ちょっとしたことでも実習指導者の方や大学の先生からも声かけをしていただけると実習生は安心するではないかと思いました。

5. ご案内

会員の方を中心にご研究を行っている「SYLLABUS 研究会」より、素敵なお案内が届きました！授業を行う際には必ず必要となる「SYLLABUS」について、皆さんも自由に意見交換を行いませんか。参加すると、何故、「シラバス」ではなく「SYLLABUS」と表記しているのかの秘密もわかるかも？！

詳細は、コチラ！！



アクティブラーニング・カフェ開催のお知らせ — 「学生も教員も楽しめる授業研究へのお誘い」 —

SYLLABUS 研究会

川廷 宗之（大妻女子大学名誉教授）

久保田 寛（東大阪大学短期大学部）

私たち SYLLABUS 研究会では、日本社会福祉教育学会の助成を得て、SYLLABUS の内容研究を通して「**学生も教員も楽しめる授業**」開発に関して研究を進めてきました。しかし、「**学生も教員も楽しめる授業**」を増やし広げていくためには、授業実践をどう楽しくしていくのか、実践に含まれる「暗黙知」を「形式知」として抽出していくことで、具体的な改善策を提案していく必要性を感じるに至りました。

そこで、本研究会では、授業改善やシラバスに関する実践上の工夫・悩みを持ち寄り、自由に意見交換を行う場として「**アクティブラーニング・カフェ**」を開催することにしました。研究発表のような形式ではなく、社会福祉専門教育に関心を持つ会員が、日々の教育実践をもとに対話し、互いに学び合うことを目的とした気軽な交流の機会です。



「カフェ」ですので、参加をいただけたような皆様の意見交換が中心ですが、最終的には、「学生も教員も楽しめる授業」に向かって、単なる受験対策の知識詰め込み教育ではなく、対人支援活動の実践の楽しさ、意義などを学生と教員が共有できるようになり、社会福祉士として活躍する意欲を育む条件づくり(授業)をしていくために、今、私たち(教員は、SW実践者は)は何が出来るのか、どうしてそう考えるのか等に関し、意見や事例を纏めてい

きたいと考えています。

なお、私たちは、アクティブラーニング「学生が中心になって活動しながら学ぶ、教員も楽しめる授業」などの内容は、SYLLABUSにも大きく反映されと考えています。言い換えれば、社会福祉専門教育における授業実践やアクティブラーニングの研究は、その表現であるSYLLABUSの意義を改めて問い直し、授業改善、学修支援、成績評価の明確化に資するSYLLABUSの開発につながると考えています。

授業改善、アクティブラーニング、演習・実習教育、SYLLABUS作成、FD、教学マネジメントなどに関心のある方であれば、これまでの経験や所属機関の種別を問わず歓迎いたします。日々の悩みを出し合い、実践の工夫を交換しながら、高等教育としての課題（一人の職業人・市民の養成）達成を目指し、まずは「アクティブラーニング・カフェ」にご参加いただき、実践や情報や意見の交換を共に始めていただければ幸いです。

【開催概要】

名称：アクティブラーニング・カフェ

主催：SYLLABUS研究会

代表：川延 宗之（大妻女子大学名誉教授）、久保田 寛（東大阪大学短期大学部）

日時：2026年9月頃から、夜間の午後8時頃から1時間半～2時間程度、月1回程度、の予定

※、当面、1年半程度は継続開催の予定。（参加者次第ですが、日本社会福祉教育学会の研究助成期間は、2028年度一杯です）

開催方法：オンライン開催（またはハイブリッド開催）

対象：日本社会福祉教育学会会員、社会福祉専門教育・シラバス・授業改善に関心のある方

内容：カフェですので・・・授業の悩み交換、実践事例交換意見交換、話題提供

参加費：無料

申込方法：シラバス研究会・事務局（職業教育研究開発推進機構・内）E-mail：info@rdipa-vet.org

アクティブ・ラーニングカフェ・お知らせ頁 <https://www.rdipa-vet.org/active-learning>

問い合わせ先：シラバス研究会・事務局（杉山 真理・職業教育研究開発推進機構事務局）

E-mail：info@rdipa-vet.org



社会福祉教育の現場には、授業づくり、学生理解、実習教育、評価方法など、多くの工夫と課題が知られざる「暗黙知」として蓄積されていると考えています。このカフェでは、最終的にそれらをシラバスという具体的な教育媒体を手がかりに共有し、専門職養成教育の改善につなげていきたいと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。

6. お知らせ

募集中!



学会誌への論文等の投稿をお待ちしております!

本会は、「社会福祉教育に関する実践及び研究水準の向上」、「教育法・教授法等の開発」、「社会福祉教育の関係者間の相互連携を図る」ことにより、「社会福祉教育の発展に寄与すること」を目的としており、『日本社会福祉教育学会誌 (Japanese Journal for the Study of Social Welfare Education)』もその事業の1つです。

論文等の原稿投稿は **随時可能!!**

掲載が決定した原稿のうち、掲載可能になった原稿から **順次 J-STAGE に掲載**し、年内に校了できなかった原稿は翌年以降に J-STAGE に掲載します。
編集規程、執筆要領を熟読のうえ、「投稿にあたってのチェックリスト」(<https://www.jsswe.org/issues/journals>)とあわせて、下記アドレス宛にご投稿ください。お待ちしております!!

原稿投稿先

editor.jsswe@gmail.com (日本社会福祉教育学会誌編集委員会宛)



ご所属先やご連絡先（メール等）等、変更された会員の皆さまは、お手数ですが事務局 (info@jsswe.org) までご連絡いただけますようお願い申し上げます。



イベント開催情報や便利で役立つ教育ツールや教材、教育実践 tips (コツや秘訣) など、随時受け付けております!
お気軽に事務局 (nl.jsswe@gmail.com) までご連絡ください!

7. 編集後記

梅雨が明け、いよいよ本格的な夏の到来です。今年の夏は、何度「今年一番の暑さ」という報道を耳にするのでしょうか。

今号は会員の皆さまの変わらぬご尽力のほか、「SYLLABUS 研究会」からアクティブラーニング・カフェ開催のご案内、武蔵野大学の学生の方々からのご協力をいただきました。「SYLLABUS 研究会」で開催されるカフェは、どのような対話が、どのような学び合いにつながるカフェになるのか楽しみです! また、新しい企画で学生の方々からうかがったお話、3人とも純粋な想いをまっすぐにぶつけていただき、私としても学びの多い有意義で楽しい時間となりました。

改めまして、「SYLLABUS 研究会」の皆さま、武蔵野大学の皆さま、ありがとうございました!



次号も皆さまに楽しんでもいただけるような内容となりますよう頑張りたいと思います。
次回の発行は、11月末日を予定しております。お楽しみに♪

ニュースレター編集委員
島谷 綾郁